

備える。

病気・ケガに

一生涯

備える。



がんを手厚く保障。



通院に備える。

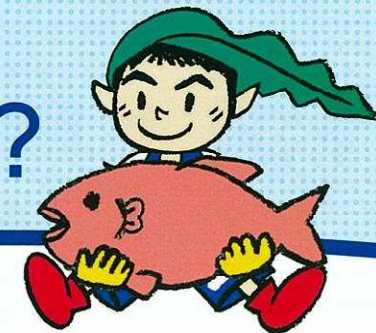


海難・交通事故を
上乗せ保障。



生活習慣病や女性疾病を
手厚く保障。

備えの必要性について、考えてみませんか？



平均寿命が延びています。

20年前に比べると、男女とも平均寿命が3歳以上も延びています。

心配事

老後の準備はできているだろうか…？

日本人の平均寿命

	平成8年	平成28年
男性	77.01歳	80.98歳
女性	83.59歳	87.14歳

出典：厚生労働省「平成28年簡易生命表」

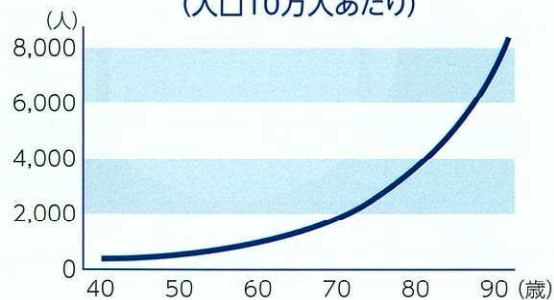
高齢になるほど入院する人が増えます。

年を重ねるほど、ケガや病気で入院するリスクは増えるので「今は健康には自信がある」方も備えが必要です。

心配事

医療保障を一生受けられないだろうか…？

年齢階級別入院受療率 (人口10万人あたり)



出典：厚生労働省「平成26年患者調査」

生活習慣病の患者数。

食生活の乱れ、運動不足、喫煙等によって引き起こされるといわれる生活習慣病。死因の上位を占める生活習慣病を患っている方が、全国にたくさんいます。

主な生活習慣病による総患者数

がん	162.6万人
糖尿病	316.6万人
脳血管疾患	117.9万人
心疾患 (高血圧性のものをのぞく)	172.9万人
高血圧性疾患	1,010.8万人

心配事

生活習慣病の備えが手薄ではないだろうか…？



いわゆる脳卒中は、入院が長引く場合があります。

平均入院日数

くも膜下出血…	119.6日
脳内出血 ……	127.4日
脳梗塞 ……	90.6日

出典：厚生労働省「平成26年患者調査」

日本人の約2人に1人*がかかる病気、がん。がん診断後の生存率が上がっています。

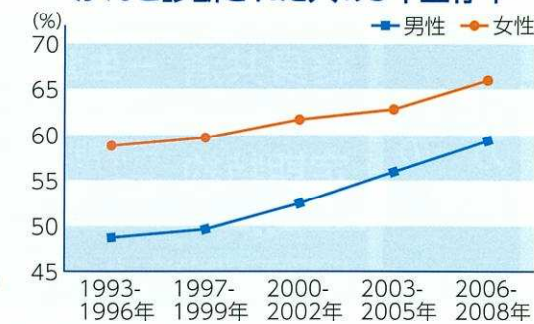
*公益財団法人 がん研究振興財団「がんの統計'17」

医療技術の進歩等により、がんと診断されてからの5年生存率が増えています。治療に専念するために、**入院・手術・放射線治療等の備えが必要**です。

心配事

お金の心配をせずがん治療に専念したい…。

がんと診断された人の5年生存率



国立がん研究センター 地域がん登録による生存率データ(1993~2008)をもとに作成

先進医療は自己負担額が高額になるケースがあります。

高度な医療技術を用いた療養として注目される先進医療ですが、その技術料は公的医療保険制度の対象外であり、**全額自己負担**となります。

心配事

先進医療を受ける資金を準備できるだろうか…？

高額な先進医療の例

先進医療技術名	適応症	1件あたりの技術料
重粒子線治療	がんなど	約315万円
陽子線治療	がんなど	約277万円
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	白内障	約58万円

厚生労働省 先進医療実績報告書(平成28年7月1日~平成29年6月30日)をもとに作成

その「心配事」に、JF共済がお応えします！



万一の場合や
病気・ケガに
一生備える。

終身共済 + 医療共済

加入年齢 15歳~75歳 60・65・70・80歳払込終了

ライフプランに合わせて自由に設計できます。

例えば…

現役時代の万一の保障を重視しながら掛金は抑えたい。

万一の保障を確保しつつ次の世代へ資産を残したい。

万一の保障より医療の備えを重視したい。

定期特約 980万円
終身共済 20万円

払込終了

終身共済 1,000万円

払込終了

女性疾病入院特約 等

医療共済

終身共済 100万円

払込終了 80歳